

## 巻 頭 言

### 学 術 活 動

病院長 和 泉 裕 一

本誌は原著論文、症例報告、各部署の報告、業績報告、上川北部医師会の先生からの寄稿などから成っていますが、今回の第21巻第1号はかなり読み応えのあるものとなっています。投稿くださった皆様と編集委員にお礼申し上げます。名寄市立病院医誌は平成5年に第1巻が発刊され、実に20年の歴史を刻みました。これまで発行された医誌を順に読んでみますと、当院の状況や歩みを知るうえで大変貴重なものであることがよくわかります。

これからの中核病院として必要なことは、患者さんに選ばれる病院であることや他医療機関との連携の中心になることはもちろんですが、その他に、多くの研修医が良い修練の場所として集まってくる病院であること、そして、学術活動も活発に行われ、きちんとした資料として残すことであると私は思っています。医育大学とは違って基礎研究を望まれているわけではありませんが、当院を受診された多くの患者さんの診断・治療のなかに臨床研究の題材が豊富にあります。めずらしい症例だけに価値があるわけではなく、ありふれた毎日の臨床のなかで自らの成績を分析・再検討し振り返ることも重要なことでもあります。患者さんの治療を決定するうえで必須である“説明と同意”のなかに、標準的なガイドラインとともに自分たちの成績を示すことが要求される時代になっています。常に自らの実績・成績をまとめて把握しておくことが必要であります。

学会・研究会の発表や論文として紙上発表することは、自分たちが行っている医療行為の方法や成績が第三者に評価を受けることであります。これはいわゆる“他流試合”ではありますが、これに充分耐えうるしっかりとした基盤をもつ病院を目指してゆきたいと思う次第です。

最後になりましたが、本号には、平成15年から10年の長きにわたり名寄市立総合病院院長として多大な貢献をされた佐古和廣先生のご経歴と全業績が12ページにわたり綴られています。あらためて佐古和廣先生の学問的業績における偉大さを感じることができます。ぜひご一読いただくようお願いいたします。

(2013年6月28日)